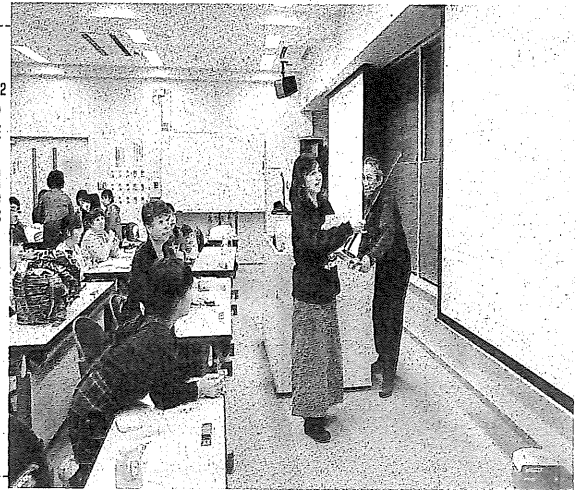


# 家族で取り組むCO<sub>2</sub>削減

らしを目指す。すでに9月、10月の実験は済み、約10家庭がデータを集計している。「こうした実験自体が少なく、貴重な資料になるはず」と宝田塾長。削減の方法と生活への効果、家族の感想などは、23日に桐生市市民文化会館スカイホールで開かれるイベント「未来の環境」で発表される。

桐生の産官学民で取り組む未来創生塾(宝田恭之塾長)の院生たちが、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出を減らす暮らしに挑戦し、「暮らしの手帖」で紹介された実験の2018年家庭版だ。電気・ガス・ガソリンの消費を削減しながら、もっと楽しい暮

## 未来創生塾でチャレンジ中



CO<sub>2</sub>の排出削減プロジェクトに挑む未来創生塾の家族。削減の取り組みは今も続けている(群馬大学理工学部)

の家庭が削減を達成。取り組み方によっては「CO<sub>2</sub>削減が健康につながる」「家族間の会話が充実した」「子どもが勉強に集中できるようになった」といったメリットも。

一方で継続するにはストレスがかかるものもあり、意見はさまざま。塾長の宝田さんは「28年前は一人暮らしの学生が取り組んだのも、今回は家族単位なので、効果はより大きいはず。貴重なデータがとれたし、メリットもデメリットも見えたのが大きい」と話す。

23日の環境イベントでは数家族が取り組みの成果を発表し、座談会も行う予定。宝田さんは「来場して聞いて、ぜひ参考に」と市民に呼び掛ける。

## 23日「未来の環境」で発表

### 28年前の群大宝田研の実験の家庭版

地球温暖化の一因とされる温室効果ガスの削減は世界的課題。2016年に閣議決定された地球温暖化対策計画によると、日本は30年度に26%削減(13年度比)、50年までに80%削減(同)を目指している。それには企業だけでなく個人の意識改革が欠かせない。

今回、未来創生塾の院生の家庭が取り組んでいるCO<sub>2</sub>削減プロジェクトは、家庭でできる具体的な温暖化対策を実験・検証する試み。院1年の約10家庭は9月以降、それぞれアイデアを出し合い、電気・ガス・ガソリンの削減を実践してきた。

例えば「電気をこまめに消す」「早寝早起き」できるだけ同じ部屋で過ごす「風呂の入りを工夫する」「徒歩や自転車で購入物にかける」など、挑戦したメニューは家庭によってさまさま。中には20項目近い取り組みを実践した家庭もある。

メンバーは各領収書をもとに、前年同月の1カ月のCO<sub>2</sub>排出量をモルと呼ばれる物質重量で換算。電気1キロワット毎時は8.8モル、ガソリン1リットルは50モル、都市ガス1立方尺は47モルといった具合だ。

18日に行われた集会では、それぞれの家庭がまとめた2カ月の成果を公表し、意見を交換した。その結果、多く

宝田 恭之 氏(修51K)  
工業会顧問 群馬大学特任教授  
群馬大学名誉教授 元工学部長  
未来創生塾塾長